広告

ハンドルの重みは命の重み

交通事故・飲酒運転 0 に ゼロ

公益財団法人 交通遺児育英会
会長 石橋 健一 氏

いしばし・けんいち　1942年生まれ。北見柏陽高校卒、北海道大学工学部卒業後、日新製鋼入社。呉製鉄所エネルギー技術課、本社人事部などを経て、96年交通遺児育英会に出向。事務局長、専務理事、理事長を歴任し2023年6月より現職。

公益社団法人 北海道交通安全推進委員会
会長 真弓 明彦 氏

まゆみ・あきひこ　1954年旭川市生まれ。北海道大学工学部卒業後、北海道電力入社。取締役社長、取締役会長を経て、現在、名誉顧問。2024年6月より現職。この他、北海道経済連合会名誉会長、北海道大学総長顧問などを務める。

公益財団法人交通遺児育英会は設立から56年にわたり交通事故により保護者が亡くなったり、重度の障がいを負ったことで経済的に困窮する子どもたち（交通遺児）に、奨学金の貸与や給付事業を柱に、学生寮の運営や海外語学研修などのさまざまな支援を続けてきた。また、交通遺児を生まないために交通事故・飲酒運転ゼロを目指し、交通安全推進運動への協賛・協力事業も展開している。

公益社団法人北海道交通安全推進委員会は行政と経済界などで構成され、北海道や北海道警察などとともに古くから全道的な交通安全運動を展開しているほか、道民の寄付による交通遺児の支援を行っている。

ここでは、両会のトップに、交通遺児支援、交通事故と飲酒運転の根絶に向けた取り組みに込めた思いなどを語ってもらった。

企画制作／北海道新聞社営業局

それぞれの団体がどのような活動をされているのか教えてください。

真弓　当委員会は、1975年に法人化しましたが、前身は62年に誕生しました。車社会が進展する中、スピードの出しすぎや冬場のスリップ事故など、北海道特有の事故多い状況が続いたことから、行政と経済界などが一丸となり交通安全に取り組んできた北海道独自の団体です。

現在、会員は179市町村のほか、各種団体や報道各社など77団体、賛助会員企業など60団体で構成しており、役割は大きく2つあります。ひとつは、道や道警などとともに、全道的な交通安全運動を展開すること。もうひとつは、北海道の皆さんからのご寄付による交通遺児の支援です。

本道の交通事故死者数は、71年の889名がピークでしたが、昨年は104名と最少となりました。しかし、本年は死亡事故が増加しており、6月末現在で昨年より8名多い49名の方が亡くなられております。また、コロナ禍以降に増加した自転車事故、被害者にも加害者にもなる高齢者の交通事故、〝ながらスマホ〟や訪日外国人の運転による交通事故など新しい問題や課題があり、われわれとしては常に危機感を持ちながら、交通安全対策の手を緩めずに取り組んでいかなければなりません。

石橋　昭和40年代の高度経済成長期に交通事故の急増が社会問題となりました。交通事故で保護者を失い進学が困難になった子供たちを支援するための組織設立を求める運動が起こり、1969年5月2日に交通遺児育英会は設立されました。

交通遺児育英会は、これまで約5万8千人の交通遺児に総額584億円以上の支援を行ってきました。奨学金の貸与・一部給付のほか、東京・関西地区の学生寮「心塾」の運営、交通遺児という同じ境遇にある奨学生同士が一堂に会し、親睦を深める場「高校奨学生と保護者のつどい」、高校奨学生を対象に夏休みに実施する「海外語学研修」、保護者の皆さん同士が交流と親睦を深める場「語らいカフェ」など、子どもたちの進学や自立のためのさまざまな支援を行っています。

近年は給付型支援を拡大しており、2020年4月より高校生を除く奨学生を対象に月額2万円の奨学金給付を開始し、23年4月からは高校生にも月額1万円の給付を実現しています。ほかにも自宅外通学者への家賃補助、上限15万円として運転免許取得費用の補助などがあります。返還負荷軽減策としては、生活保護受給者と住民税非課税者を返還免除対象とするなど、返還者の経済状況に寄り添えるよう努めています。今後も、さらなる給付型修学支援の充実と、奨学金の返還猶予や免除など返還負荷軽減策を重要課題として取り組んでいきます。

交通遺児育英会では今年度も支援を拡大されたそうですね。

石橋　奨学生や保護者の要望に応えて、2025年4月より広範囲の資格取得について必要な受験費用の全額補助を開始しました。在学中に取得することができ、進学・就職などに有利になる各種資格の取得費用補助を要望する声が従来から根強くあったため、簿記、新生児蘇生法など医療系、MOSなどIT系、電気工事士、宅建、調理師、ファイナンシャル・プランニング技能検定といった各分野の主要な41の資格を補助対象として拡大しました。（※欄外一覧参照）これらの補助は、受験回数、金額に上限を設けず全額給付します。

また、24年4月より英語検定試験の補助を行ってきましたが、奨学生や保護者から他の外国語も加えてほしいとの要望が多く、25年度からフランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国語、ロシア語、イタリア語の7言語（13検定対象）、これに併せて日本漢字能力検定（漢検）、実用数学技能検定（数検）を新たに加えました。いずれも受験回数や費用に上限は設けず全額給付します。

さらに、すでに実施している大学、専修学校専門課程または各種学校の受験費用補助についても、給付金額の上限を10万円に引き上げるとともに、対象として大学院を追加しました。

もう一点、ヤングケアラーの問題があります。奨学生を対象とした調査で、約11パーセントの高校生や大学生が「世話をしている家族がいる」と回答しています。心身の負担や経済的な不安を訴える声も多く、なるべく早くしっかりした支援を開始する必要があるとして、現在、実情調査、該当すると思われる奨学生との個別面談を進めているところです。支援体制が整ってきている自治体もあるので、そうした情報を奨学生たちに伝えることはすでに始めています。修学のための資金支援のほかに、どのような金銭的なサポートができるかも考えていきたいです。

北海道交通安全推進委員会はどのような交通遺児への支援を行っていますか。

真弓　従来からの貸付型の「奨学金」に加え、2023年に返還不要の「お見舞金」と「給付金」の制度を新設し、〝3つの応援〟を行っています。このうち給付金は、「夢をあきらめないで未来に向かってはばたいてほしい」という願いを込めて、対象を赤ちゃんから中学生までとしています。

交通遺児育英会さんは全国組織ですが、道内には当委員会のほか、「北海道交通遺児の会」や十勝地方、釧路・根室地方には地域限定で交通遺児を応援している機関があります。当委員会では、こうした団体と重複しないよう支援策を提供し、社会全体でバトンを渡し合いながら、切れ目のない応援を実現できるようにしました。

先般、各機関の支援策全体を一覧表にし、各市町村の住民窓口や福祉部局、学校などに配布しました。みんなで連携して、すべての交通遺児に支援が届くよう情報提供しています。特に、道外に進学する子どもたちには、交通遺児育英会という素晴らしい支援団体があることをお伝えし、支援・応援をつなげたいと考えています。当委員会も、交通遺児育英会と手を取り合い、これからも交通遺児家庭の課題や悩みに耳を傾け、子どもたちの心に寄り添っていく支援機関としての活動を充実させていく考えです。

石橋　私どもの奨学制度は地域を限らず全国の交通遺児の方々をカバーしています。また、他機関との併受給も制約していませんので、ご家計の状況によっては各地域の奨学制度と併用することも可能です。

学生寮「心塾」は、東京圏では目野、武蔵境、所沢の3カ所に用意しています。関西圏では大阪、兵庫、京都の3大都市圏に約25カ所、通学に便利な寮を用意しています。

交通遺児家庭には、われわれのような支援組織を知らない人もいます。一人でも多くの交通遺児を支援したいと、2022年度に広報活動を強化するため「広報課」を立ち上げました。真弓会長がおっしゃったように、各機関が連携し、子どもが大人になるまでの切れ目ない支援が実現していることを道内の隅々にまで伝え、修学をあきらめる子ども・青少年を一人でも減らしたい。支援を必要とされている家庭は、ためらわず「助けて」と声をあげてほしいです。

きょう7月13日は「飲酒運転根絶の日」ですね。

真弓　多くの道民の皆さんの記憶に残っていると思いますが、2014年7月13日に小樽で海水浴帰りの女性3名が飲酒ひき逃げ事故でその若い命を奪われてから、昨年で10年がたちました。また、今年は15年6月6日に砂川市で一家5人が死傷した飲酒事故から10年です。これらの悲惨な事故を風化させず、飲酒運転を根絶するため、15年12月に「北海道飲酒運転の根絶に関する条例」が施行され、10年となります。この条例で毎年7月13日を「飲酒運転根絶の日」と定め、この日を中心に全道でさまざまな取り組みが行われています。

当委員会では、今年あらためて自動車関連団体や建設業界、コンビニ業界、ゴルフ場、飲食店などさまざまな団体・業界に積極的に働きかけ、あらゆる立場のみなさんの力を結集して飲酒運転の根絶に向けた運動を進めていきたいと考えています。本年度の「飲酒運転根絶！高校生メッセージコンクール」の募集も始まりました。大学生などの若い力も借りていきます。

大切な命が失われても飲酒運転がなくならない社会であってはならない。人生の途中で命を断ち切られた人たちの無念を想像して、ドライバーは自分の運転を、ハンドルを握る責任をいま一度、見つめ直してほしいと思います。また、「自分の組織は大丈夫」と過信していては「安全」は手に入りません。目指すのは、**「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」**社会です。それが道民一人一人の約束ごとであり、道民みんなの願いです。

石橋　車の運転は視覚、聴覚、動作と複数のことを脳で処理をする高度な技術です。微量の飲酒でも悪影響を及ぼすことが科学的に明らかになっています。集中力が下がる、注意力が落ちる、反応が遅れるなど、運転に必要な「正しい認知、判断、操作」ができなくなります。飲酒運転は絶対にやってはならないのです。

当会でも交通事故を減らすための活動に力を入れており、企業の研修や自動車学校などでの無料出張講演を年間30回程度、全国各地で実施しています。講演では、子どもと保護者にそれぞれの立場から事故被害の体験談をお話しいただき、交通事故の悲惨さと交通安全の大切さを訴えています。講演であるお母さまが言った**「ハンドルの重みは命の重み」**という言葉があります。誰もがこの言葉を心に留め、運転することが何よりも大切だと思います。これからも事業を通して、飲酒運転根絶と安全運転徹底を呼び掛けていきます。

北海道の“支援のバトン”、切れ目なく応援します。

～北海道の交通遺児の皆さんを応援する主な機関・団体～　令和7年1月現在

機関・団体名	対象地域	乳幼児	小学生	中学生	高校生	大学生 短大生 専門学校生
公益社団法人 北海道交通安全推進委員会 TEL.011-221-6666	全道	給付金	給付金	給付金	給付金	
		お見舞金	お見舞金	お見舞金	お見舞金	
				奨学金	奨学金	
					奨学金（入学時）	
公益社団法人 北海道交通遺児の会 TEL.011-232-8688	全道				奨学金	奨学金
			祝金・支援金	祝金・支援金	祝金・支援金	祝金・支援金
		その他（図書カード、交流会など）	その他（図書カード、交流会など）	その他（図書カード、交流会など）	その他（図書カード、交流会など）	その他（図書カード、交流会など）
公益財団法人 交通遺児育英会 TEL.03-3556-0771	全国				奨学金	奨学金
					奨学金（入学時）	奨学金（入学時）
					補助金	補助金
					その他（交流会、学生寮など）	その他（交流会、学生寮など）

給付・返還不要　給付（一時金）・返還不要　貸付・返還必要　貸付（一時金）・返還必要　その他

交通遺児育英会の資格試験費用補助（返還不要）／補助金対象資格試験一覧

日商簿記検定試験、公認会計士、税理士、司法試験予備試験、司法試験、行政書士、新生児蘇生法、BLS（米国心臓協会の一次救命措置）、ACLS（米国心臓協会の二次救命措置）、助産師国家資格、看護師国家資格、保健師国家資格、心電図検定、OET（医療英語検定）、登録販売者（医薬品）、子供心理カウンセラー、スピリチュアルケア師、MOS（マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト）、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、ITパスポート、第二種電気工事士、第三種電気主任技術者、自動車整備技能登録試験、二級ボイラー技士、宅地建物取引士（宅建）、二級建築施工管理技術検定、二級土木施工管理技術検定、調理師試験、管理栄養士、フードスペシャリスト、国内旅程管理主任者資格、総合旅程管理主任者資格、国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者、観光英語検定、世界遺産検定、危険物取扱者試験、ファイナンシャル・プランニング技能検定、学位の認定、秘書検定

交通遺児育英会が東京都内で地方の奨学生向けに開設する学生寮「心塾」

奨学金利用者の声

手厚い支援に感謝、天国の父に頑張っている姿を見せたい。

札幌市／J・Yさん　19歳

漁師の仕事をしていた父は、水揚げされた魚介類をトラックの荷台に積み込む作業をしていた際、誤って地面に転落する事故で亡くなりました。私は父が大好きでした。スポーツが得意で、幼い頃からいろいろな競技に挑戦させてくれた父は、よく笑い、よく働いて、いつも温かく家族みんなを楽しませてくれました。まだ小1だった私は、父の死を完全に理解できていませんでしたが、二度と父と話したり遊んだりできないのだと思うとすごく寂しい気持ちになりました。母は一人親になり、私が想像もできないほどの苦労もあったと思いますが、そんなことはおくびにも出さず、いつも明るく笑顔で「やりたいことをやって、自分らしく自由に生きなさい」と、私と弟の背中を押し続けてくれています。母の偉大さ、ありがたみを感じながら、父との思い出も糧にして、私は小中高といろいろなスポーツに打ち込みました。今は世界のトップアスリートを指導、サポートできるスポーツインストラクター・トレーナーになるという夢を叶えるため、運動理論や栄養学、生理学など幅広い知識や技術を大学で学んでいます。

私がここまで歩んできたのは、多くの支援との出会いに恵まれておかげです。交通遺児育英会が学費や生活費を支えてくれているので、私は高校、大学と自分の行きたい道に進むことができました。今、語学力を磨くことにも力を入れているので、「TOEIC（トーイック）」の受験費用を負担してもらえることも非常にありがたいです。経済的に安心できる環境のもと、大学生活は学業とスポーツに専念するつもりです。

父が亡くなってから14年が経とうとしています。私はこれからもっと努力して目標や夢を一つずつ実現し、天国の父が自慢できるような立派な人間になってみせます。そして、苦労をかけた母に親孝行したいと思います。どうか見守っていてください。

今日7月13日は北海道「飲酒運転根絶の日」です。

交通事故ゼロ、飲酒運転ゼロを目指して、無料出張講演を行っています。

交通遺児や保護者の方の体験を視聴いただくことは、交通安全の大切さを実感する絶好の機会となります。ぜひ、お問合せください。

交通遺児育英会は、50年以上にわたり、保護者が交通事故で亡くなったり、重度の後遺障がいのため、経済的に修学が困難になった子どもたちに、高校や大学・専門学校などへの進学を支援し続けています。修学を終えると、社会に役立つ人材として羽ばたいていきます。私たちの活動は大きく5つの事業で成り立っています。

1. 奨学金の無利子貸与（一部給付）
2. 奨学生の指導および育成と交流
3. 学生寮「心塾®（こころじゅく）」の運営
4. 修学支援金の給付
5. 交通安全推進運動への協賛・協力、無料出張講演等

私は、進学の夢をあきらめない。
公益財団法人 交通遺児育英会

募金課 0120-521285（平日9:00～17:30）
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1 平河町ビル3階
交通遺児育英会 検索
bokinka@kotsuiji.com